

16. 多文化共生について（問42～問43）

問42 豊橋市には1万9,750人（令和5年4月1日時点）の外国人市民が共に暮らしています。

お住まいの地区に外国人市民が増加することをどう感じますか。

（複数回答：n=2,233）

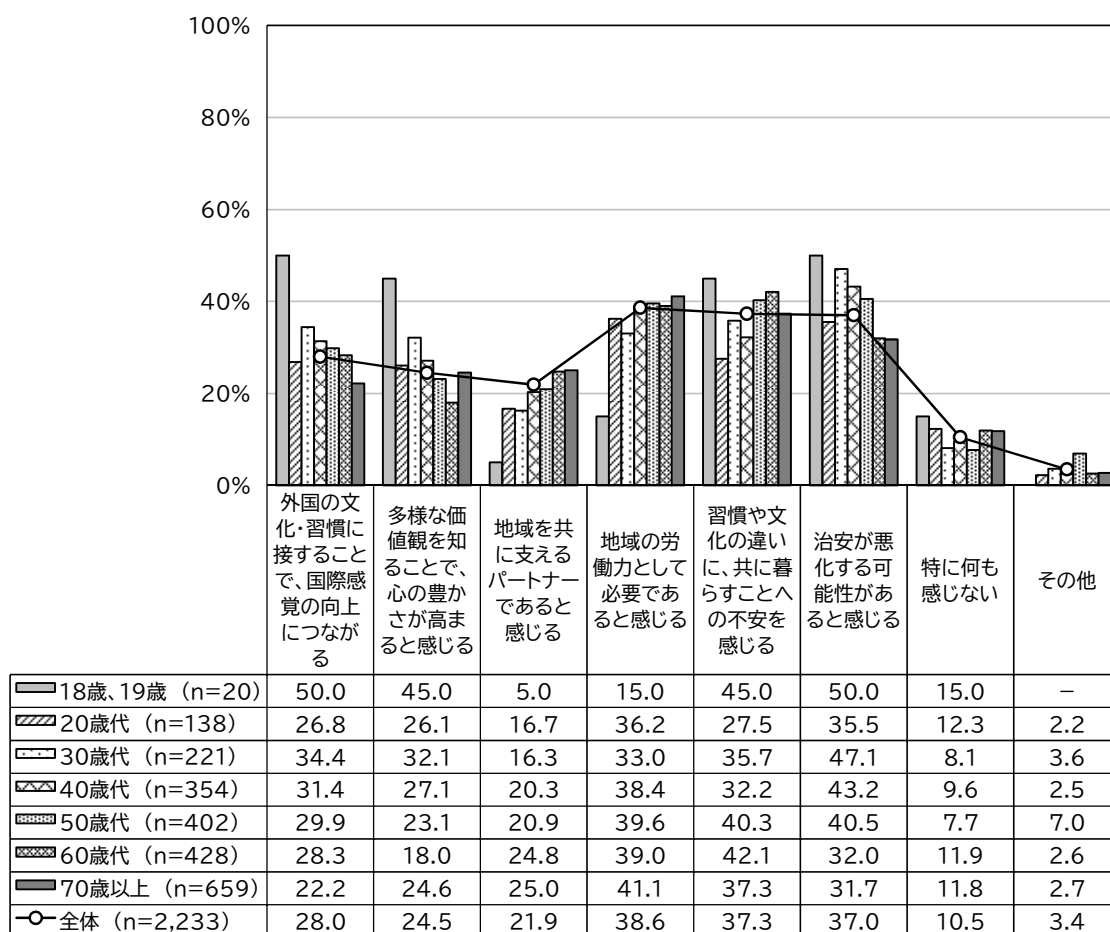
（1）全体的傾向

「地域の労働力として必要であると感じる」と回答した人の割合が38.6%と最も高く、次いで「習慣や文化の違いに、共に暮らすことへの不安を感じる」（37.3%）、「治安が悪化する可能性があると感じる」（37.0%）と続いている。

（2）年代別にみた特性

18歳、19歳は「外国の文化・習慣に接することで、国際感覚の向上につながる」と回答した人の割合が50.0%、「多様な価値観を知ること、心の豊かさが高まると感じる」と回答した人の割合が45.0%と他の年代と比べ高くなっている。

また、18歳、19歳及び30歳代から50歳代は「治安が悪化する可能性があると感じる」と回答した人の割合が40.5%～50.0%と他の年代と比べ高くなっている。



問43 外国人市民と共に暮らしやすい社会にしていくためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。（複数回答：n=2,202）

（1）全体的傾向

「日本の生活ルールや習慣、文化の違いについての周知」と回答した人の割合が75.9%と最も高く、次いで「外国人市民のための相談体制の充実や、多言語での情報提供」（51.0%）、「外国人市民への日本語の学習機会の提供、外国人市民の児童・生徒の教育の充実」（47.8%）と続いている。

（2）年代別にみた特性

すべての年代で「日本の生活ルールや習慣、文化の違いについての周知」と回答した人の割合が最も高く、70.0%～81.2%と7割を超えている。

